

## 東アジア海域における国際協働へ向けての動き

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 秋山, 秀樹 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008567">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008567</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



## 水は巡る

## — 東アジア海域における国際協働へ向けての動き —

東シナ海海洋環境部長 秋山 秀樹

年末から年始にかけて、東アジア海域の国際協働に関係する3つの会合に出席しました。「大型クラゲ分布調査」に係わる日中協議、「海洋環境モニタリング」に関する日韓会合、それと「黒潮源流域における水産業及び水産研究の現状」に関する日台シンポジウムです。いずれも我々水研センターが東シナ海を中心とした海域（図1）で推進している国際連携の一環で、従来の二国間対応から一步踏み込んで、「協働」で実質的な調査研究を行おうとするものです。

まず、大型クラゲ分布調査に関しては、2009年日本や韓国で大型クラゲが大量出現し、両国の水産業等に甚大な被害をもたらしました。大型クラゲの発生原因を究明し正確な発生時期を把握するためには、発生源水域と推定される黄海～東シナ海北部の中国水域（図1の①）での現地調査が必須であるという日本側からの強い要請に対し、中国漁業局と水産科学研究院はある程度理解を示してくれています。現在水産庁が日中の関係省庁の協力を得て、中国水域における日中共同調査の実施へ向けて協議中です。また、水研センターを中心とした大型クラゲ国際共同調査グループは実働体制を整えるとともに、実施計画を立案中です。

次に、海洋環境モニタリングに関する日韓会合では、これまで別々に現地調査を実施してきた東シナ海北部海域（図1の②）において、両国で調査時期が一致する月に同時調査を実施し、相互にデータ交換をしようということ合意しました。この海域は日韓隣接海域で大型クラゲが最初に出現する海域でもあり、日韓両国ともより多くの海洋情報を、迅速に収集できるものと期待しています。西海水研・陽光丸は第1回目の同時調査のため、早速CKライン（図1の点線群）の調査に出かけています。

最後に、日台シンポジウムですが、これに関する詳細は本報の「ちゅら海便り（P7）」を参照して下さい。この日本と台湾の交流に際して、調査研究の対象となる海域（図1の③）は東シナ海南部です。ここは黒潮が東シナ海へ流

入する海域であることから、時間的にも、空間的にも非常に変動性に富んだ海域です。水産資源の変動に関する海洋環境の変動を把握するためには、同海域において広域かつ定期的な調査を実施する必要があります。しかしながら西海水研・東シナ海海洋環境部としては、これまであまり定期的な調査を実施してこなかった海域です。今後、台湾との間で水産海洋に関する調査研究が具体化する場合には、長崎本所—石垣支所間の連携を密にして、台湾との協働作業へ取り組んでいく必要があると考えています。

とにかく東アジア海域における国際協働へ向けて「共通理解に基づく連携」を推進していかなければなりません。複数国を相手にする西海水研としては、会議が林立していて、とても慌ただしい今日この頃です。

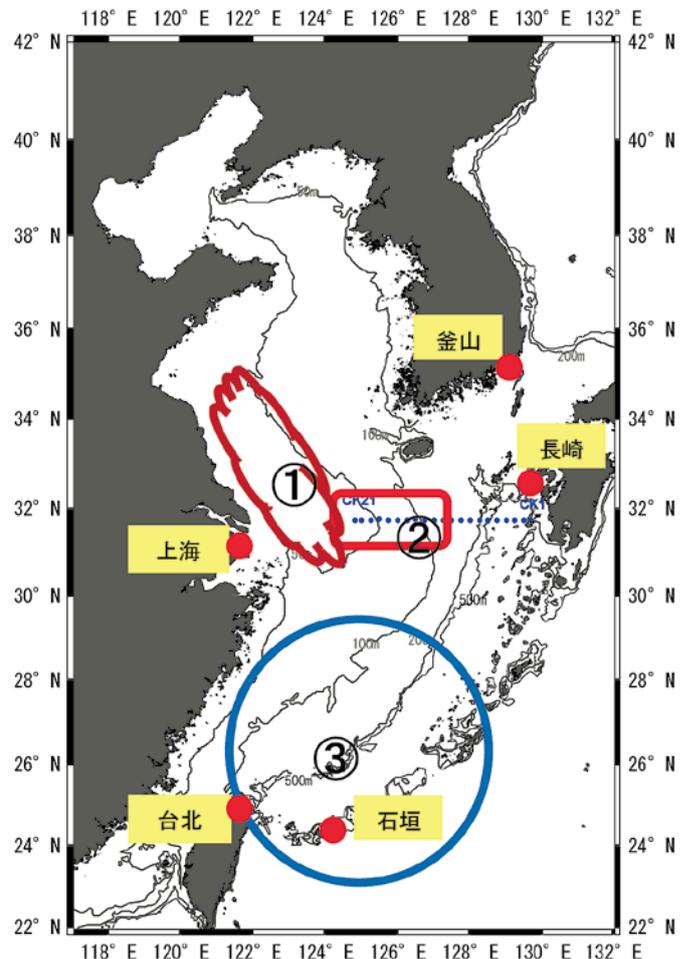


図1 東シナ海を中心とした東アジア海域  
①日中協働海域、②日韓協働海域、③日台協働海域